



第2会場●2F 自由研修室

■司 会／榎園 成人 鹿児島県姶良市教育委員会 社会教育指導員
谷上 元織 島根県益田市教育委員会社会教育課 社会教育主事

分科会の進め方

13:30～13:35

1 児童館を核にした防災の地域づくり ～中学生の地域活動への熱意が地域を動かす～

13:35～14:05

桃原 弘子(沖縄県浦添市) まちづくりNPOうらそえ 職員

「森の子児童センター」の近くの川は海拔2mしかなく、地域の安全対策は喫緊の課題である。そこで「子どものための児童館とNPOの協働」に対する助成金を活用し、センターを利用する中学生を中心にして、防災学習、社協と連携した福祉の体験を積み上げ、地域の散策・点検から近隣の福祉マップを作成するまでに至った。児童館を拠点に、地域自治会、社協、学校など各種組織と協働を模索する中で、保護者の理解を得た中学生の地域活動への熱意が地域住民を動かし、市役所、消防、警察を含む地域ぐるみの防災避難訓練を実施できるようになった。

2 中高生ボランティアグループ「とよかわっしょい」の地域貢献と自分育て 14:10～14:40

河野 利文 ほか中高生ボランティアリーダー2名(島根県益田市) 豊川地区つろうて子育て協議会 事務局

「子育て協議会」は、小学校の支援を目的に結成されたが、小学校卒業後の中高生が地域と疎遠になることに気付き、彼らのためのボランティア活動の舞台を創設した。彼らは、様々な活動機会と役割を得て、地域貢献、ふるさと意識の醸成、自分育てなど一連のライフキャリア教育に生き生きと参加している。活動は、中高生の定例の会議とサポート会議を同時並行的に進行させ、各種イベントでの販売活動、保育園での読み語り、地域の清掃・美化活動、運動会のスタッフなどを企画・実施している。グループの活動は、中高生を成長させるに留まらず、周りの大人的意識を変え、小学生が憧れて、目標とするモデル事業になり得ている。

ティータイム

14:40～15:05

3 サロンと講座を組み合わせて体系化した子育て支援策 ～子育て世代から次世代まで～ 15:05～15:35

東 浩二(鹿児島県南九州市) 南九州市教育委員会社会教育課 主幹兼社会教育係長

子どもどうしの遊び、保護者の交流、悩みの相談など地域の要望を受けて、子育てサロンは、平成10年からスタートした。サロンの運営は、子育てサポートリーダーやサポートーの協力を得て、現在市内4か所に拡大し、毎週開かれている。また、小学校入学時前の保護者向け「子育て講座」は、市内の全小学校で実施している。更に、幼稚園・保育所、小中学校と連携した「家庭教育学級」の開催、中・高生を対象とした「次世代向け子育て講座」を企画し、やがて親となる世代には、子どもとのかかわり方や交流体験を重視している。すべてのプログラムは子どもの成長段階に合わせて、保護者の自覚と教育力の向上を目指した子育て支援策の体系化をしている。

4 わくわく交流広場 ～「子育て支援委員会」が作り出す活力と協働～ 15:40～16:10

森本 綾子(鳥取県鳥取市) 鳥取市立末恒地区公民館 主事

「子育て支援委員会」は、平成14年、学校週5日制の受け皿として誕生し、公民館事業の一環として位置づけ、地域自治会、老人クラブ、婦人会、PTAなどが連携して、当番制で行事の企画・運営にあたってきた。目的は、地域、学校、保護者の協働による子どものあそびと交流の促進である。わくわく交流広場の現在の活動は、末恒小学校の昼休みと清掃の時間を活用し、「昔遊び」と「ものづくり体験」の2本立てで、夏休みを除いて年6回実施している。「ものづくり」の企画・指導については、鳥取大学に本部を置く「鳥取ものづくり道場」に依頼している。活動の継続によって、世代を超えた交流が生まれ、地域の活力の向上に繋がっている。